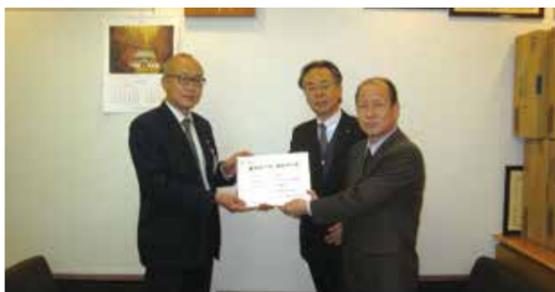


地域社会とともに

さまざまな社会貢献活動を推進しています

当工場は年2回の献血ボランティアを実施しており、2013年5月は社員と常駐業者様の社員35名にご協力いただき、採血量として14.4Lを確保し、11月は27名、9.2Lを確保することができました。定期的に血液が確保できることに対して日本赤十字社様から感謝の言葉をいただきました。また、毎年12月には京セラドキュメントソリューションズ歳末助け合い募金活動を実施しています。この募金活動は、他の人を思いやり、社会に貢献するという思いで、「枚方市社会福祉協議会」へ、社員の募金と労働組合、および会社からの寄付を合わせて446,330円を寄付しました。



歳末助け合い募金を贈呈

枚方市立津田小学校で理科実験授業を実施しました

2014年3月、当工場近隣の枚方市立津田小学校6年生の3クラス99名を対象に「理科実験授業」を前年に続いて実施しました。授業内容は、コピーの原理や電気エネルギーを利用してコピーができる仕組みを理解する講義と、児童が自分で描いた原稿を手作業でコピーする実験です。少しでもうまく写そうと何度も実験を繰り返す児童もおり、電気エネルギーが他のエネルギーに変換されて活用されることを実感してくれたようです。

先生方からは年々講義の内容が良くなっており、子どもたちも興味を持っていると好評をいただきました。今後も児童に楽しく感動してもらえるように継続していきます。



先生にも児童にも好評の理科実験授業

社員とともに

安全・安心な職場づくりに取り組んでいます

当工場は安全な職場づくりを最重要課題として取り組んでおり、2006年7月7日から2,700日の不休災害を継続し、2014年2月に大阪労働局より不休災害表彰をいただきました。これは現在も継続中で「不休災害4,100日(無災害記録 第4類)」を目指しています。

各部門では毎月1回職場パトロールを行い、安全衛生面での指摘事項を挙げ、是正処置を施して労働災害を未然に防ぐ取り組みを推進しています。

2013年6月には、外部講師を招いてフォークリフトの安全運転講習会を行い、安全作業のあり方を再認識しました。



各部門の職場パトロール

さまざまな防災活動を行っています

当工場は南海トラフ巨大地震発生予想地域の防災対策推進地域にもなっています。このため防災対策には以前から取り組み、有事における被害を最小限に留めるために、緊急地震時における初動訓練や避難訓練・初期消火訓練や救出訓練、救護訓練など、自衛消防隊を主体に防災活動や訓練を定期的に行っています。2013年は、エレベーターに閉じ込められた人の救出訓練、電話不通を想定したランシーパーのみを使用した総合防火防災訓練を初めて実施しました。近隣における一時避難場所としての役割も担い、尚一層の万全の備えをしております。



三角巾を用いた救護訓練



エレベーターに閉じ込められた人の救出訓練



京セラグループの経営思想は、「社会との共生。世界との共生。自然との共生。共に生きる(LIVING TOGETHER)ことをすべての企業活動の基本に置き、豊かな調和をめざす」であります。

この経営思想の中には、「自然に対する畏敬の念を持って環境保護への貢献に努め、自然と共に生きる、地球に優しい企業でありたい」という強い思いが込められています。

大阪・京都・奈良の三市からも程近い、都市近郊に位置する枚方工場の周辺には、穂谷川、探鳥地として有名な山田池や「モニタリングサイト1000*1」「日本の里100選*2」のひとつに選定された「穂谷地区の里山」があり、その自然豊かな近隣には、住宅地、保育園、小学校、中学校、高校、大学、そして関西文化学術研究都市の一面を占める学術研究地区があります。当工場は、まさに自然と人と社会が共生する、調和に満ちた絶好の環境で持続発展を目指した事業活動をさせていただいています。

当工場は、枚方市津田のこの地に設立以来、今年で50周年を迎えることができました。これもひとえに近隣をはじめ社会の皆様のご支援のお蔭と深く感謝し、今後も引き続き、より積極的に自然環境の保護に貢献できる事業活動に取り組んでまいります。

※1:環境省による里地調査の重点調査地域 ※2:朝日新聞社・公益財団法人森林文化協会による選定



工場長 筒井 英二

2013年度の環境活動ハイライト

低炭素社会への貢献

- | | |
|---------------------|--|
| 温室効果ガス
排出量原単位の削減 | 目標: 1,946.6kg-CO ₂ /t以下
実績: 1,947.4kg-CO ₂ /t |
| 原単位: 生産量 | 達成率99.9% |
- | | |
|---------------------------|--------------------------------|
| エネルギー使用量(原油換算量)
原単位の削減 | 目標: 1.59kL/t以下
実績: 1.59kL/t |
| 原単位: 生産量 | 達成率100% |

循環型社会への貢献

- | | |
|----------------------------|--|
| PRTR第1種指定化学物質
移動量原単位の削減 | 目標: 2012年度比1.4%削減
2012年度比
14.3%削減しました(達成) |
| 指標: 化学物質移動量/化学物質投入量 | |
- | | |
|---------------------------|--|
| 産業廃棄物排出量+
有価物発生量原単位の削減 | 目標: 2012年度比1.9%削減
2012年度比
12.6%削減しました(達成) |
| 原単位: 生産量 | |

工場概要

工場: 京セラドキュメントソリューションズ株式会社枚方工場
住所: 大阪府枚方市津田北町1-38-12
敷地総面積: 46,017m²
建築延床面積: 59,117m²
緑地総面積: 7,406m²(緑化率: 16.1%)
従業員数: 231名(2014年3月現在)
事業内容: プリンター、複合機(米国連邦政府調達機器)、
消耗品(カラートナー、モノクロトナー、感光ドラム)、
商品およびパーツの保管と配送

[沿革]

1964年 10月 三田工業株式会社 枚方工場として設立
1978年 11月 情報機器工場完成、コピスター電子複写機の増産体制
1984年 7月 トナー工場完成、電子写真用トナーの生産開始
1987年 5月 感光体ドラム工場完成、OPCドラムの生産開始
2000年 10月 京セラミタ枚方株式会社に社名変更
2000年 11月 環境ISO14001国際規格を認証取得
2002年 3月 品質ISO9001国際規格を認証取得
2002年 4月 京セラミタ株式会社 枚方工場として発足
2006年 10月 労働安全OHSAS18001認証取得
2012年 4月 京セラドキュメントソリューションズ株式会社 枚方工場に社名変更

環境保全活動

「自然との共生」(LIVING TOGETHER)を実践するため、温室効果ガスの削減をはじめ恒常的な電力不足対策、および資源の有効利用など積極的に活動しています。

CO₂排出量の削減に取り組んでいます

2013年度も省エネ活動による「温室効果ガスの削減」として電力削減を重点項目に取り組みました。トナー生産においては、設備の見直しによりトナー生産の歩留まりを向上させ電力使用量を削減しました。

また、事務所を集約することで、使用空調や照明の削減を行い、併せて水銀灯、外灯、事務所などの照明をLED化しました。例年行っているクールビズやウォームビズ、グリーンカーテンも継続して実施し、電力削減に取り組んでいます。



グリーンカーテン

生物多様性リスクに対する取り組みを行いました

2012年12月、生物多様性保全活動を進めるため第三者機関に依頼し生物多様性リスク調査を実施しました。その結果、事業活動が直接的に生態系に大きな負荷を与えていないこと、重大かつ緊急に対応すべき生物多様性リスクもないことが判明しました。しかし、大規模な洪水などの発生により危険物の保管施設が浸水し、化学物質が土壤に流出する懸念など、いくつかの潜在的なリスクが見つかったため、2013年前半には生態系破壊リスクへの対応を完了し、引き続き土壤汚染リスクに対する危険物管理の見直しと対策に取り組んでいます。



浸水による土壤汚染防止対策(下段の不使用等)

廃棄物の分別を徹底し有価物化を推進しています

従来廃棄物として処理していた、廃プラスチック包装材料のフィルム類、バンド類などについて更に細かく分別することで、廃プラスチック包装材料の有価率は前年重量比で12%増加しました。

また、2012年から取り組んだ廃トナー（製造時に発生する製品化できないトナー）の有価物化（再利用）についても有価率向上により前年度重量比で20%増加することができました。



分別による有価物化の推進

工場内の緑地化を推進しています

当工場は、植生調査の結果54種類の樹木が確認されており、鳥類の生息も23種類確認されています。さまざまな生物の好む緑地を整備することで生物多様性保全に寄与したいと考え、老朽化した建屋を解体撤去し、跡地に芝生を植えることでさらに緑地を増やしました。

今後もさまざまな機会をとらえてこれらの活動を推進していきます。



解体撤去した跡地に植えた芝生

老朽化した建屋を解体撤去

地域社会とともに

持続可能な事業所として永続的に発展するため、当工場の最重要課題の一つとして「社会との共生」に積極的に取り組んでいます。

第9回社会環境報告会を開催しました

2013年11月、地域の代表者、お取引先様ならびに行政機関の方々、31団体40名をお招きして、当社グループの社会、環境面での取り組みを紹介する第9回社会環境報告会を開催しました。主要な生産設備、作業場などの見学に加え、輸出入に繰り返し使える専用梱包ケースや廃棄物を削減したリターナブルボックス、コンテナラウンドユースのシステムについて説明、レーザー光線でさまざまな素材に印刷できるレーザーマーキングソリューションのデモンストレーションなども行いました。出席された方々からは、「地域に開かれた企業として感銘を受けた」との講評をいただきました。



地域代表との意見交換会

中学生職場体験学習を実施しました

2013年11月、仕事の現場を体験する中学生の職業体験学習を実施しました。当工場では社会貢献活動の一環として毎年生徒の受け入れを行っており、工場内での現場作業を中学生が実体験することで、働くことの意義や仕事に対する理解を深めてもらうことを目的としています。この日は枚方市立津田中学校から2名の生徒が参加しました。初日に生産現場を見学後、受け入れ職場である化成品事業部でトナーの梱包作業や梱包ケース作りを体験してもらいました。



トナーの梱包作業の体験学習

地域の美化・清掃活動を継続しています

当工場は、2004年4月から大阪府主催のアドプト・ロード&リバー・プログラムに参加しています。アドプト・ロードでは毎月1回JR藤阪駅から当工場正門までの間の歩道を、アドプトリバーでは3カ月に一度、穂谷川左岸遊歩道の清掃活動を実施しています。2013年度は延べ107名が参加しました。

また11月には、枚方市が毎年実施している、市内を流れる河川の一斉清掃活動「ひらかたクリーンリバー」に、当工場の社員とその家族が参加しました。当日は、散策を兼ねて京阪牧野駅から穂谷川歩道沿いのごみを拾い集めました。



アドプト・ロードで清掃活動

クリーンリバー作戦

京セラ文庫を贈呈しました

京セラ株式会社創立55周年の記念事業の一環として「京セラ文庫」を工場近隣の小中学校5校に寄贈しました。2014年8月枚方市役所において枚方市長、教育委員長、小中学校の教育関係者の参加のもと寄贈式を執り行いました。



寄贈式

地域授産施設の販売支援をしています

地域の授産施設の販売支援として、昼休み時間に食堂前で毎月、パイやクッキーなどのお菓子と創作小物雑貨などの販売を行っています。この取り組みは、社員の間でもとても好評です。



お菓子や創作雑貨などの手作り品の販売

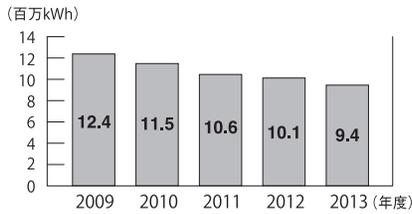
2013年度 枚方工場 環境負荷データ

事業活動と環境影響の把握

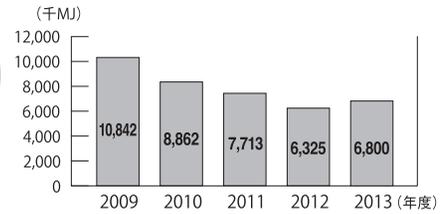
2013年度 実績

投入量

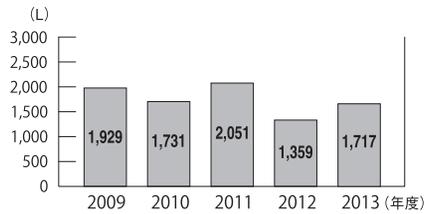
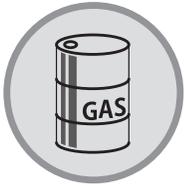
電力使用量 9.4百万kWh



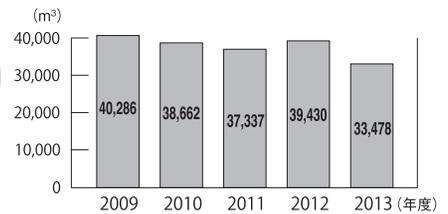
燃料使用量 6,800千MJ



車両燃料使用量 1,717L



水使用量 33,478m³



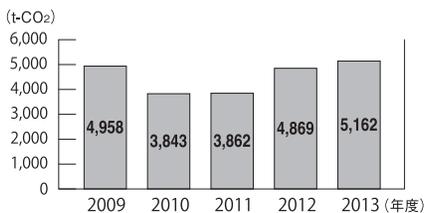
技術開発



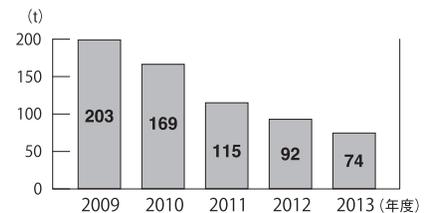
生産

排出量

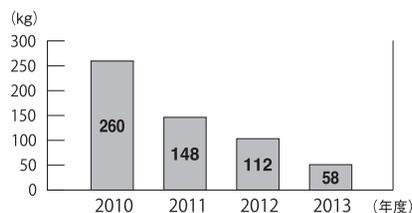
CO₂排出量 5,162t-CO₂



産業廃棄物 74t



PRTR法対象物質移動量 58kg



環境行動目標と実績

環境目的	項目	2013年度目標	2013年度実績	結果	コメント
低炭素社会への貢献	温室効果ガス排出量原単位の削減 [kg-CO ₂ /t] 原単位分母:トナー生産量	1,946kg-CO ₂ /t以下	1,947kg-CO ₂ /t	☹ 未達成	新たな生産ラインの立ち上げ対応により電気使用量は増加したが、LED照明の導入やフロアレイアウトの見直しによる無駄な電気使用の削減等の実施により、原単位は前年同様レベルに抑えることができた。
	エネルギー使用量(原油換算量)原単位の削減 [kL/t] 原単位分母:トナー生産量	1.59kL/t以下	1.59kL/t	☺ 達成	新たな生産ラインの立ち上げ対応により電気使用量は増加したが、LED照明の導入やフロアレイアウトの見直しによる無駄な電気使用の削減等の実施により、原単位は前年同様レベルに抑えることができた。
循環型社会への貢献	PRTR第1種指定化学物質移動量原単位の削減 指標:化学物質移動量/化学物質投入量 [kg/kg]	2012年比 1.4%削減	2012年比 14.3%削減	☺ 達成	トナー生産の収率改善やトナー廃棄物の有価率向上により、原単位削減。
	産業廃棄物排出量原単位の削減 [kg/t] 原単位分母:トナー生産量	2012年比 1.1%削減	2012年比 2.4%削減	☺ 達成	トナー廃棄物の有価化率向上により、原単位削減。
	産業廃棄物排出量+有価物発生量原単位の削減 [kg/t] 原単位分母:トナー生産量	2012年比 1.9%削減	2012年比 12.6%削減	☺ 達成	玉城工場への生産移管により有価ダンボール量が減少し、原単位削減。
	水使用量原単位の削減 [m ³ /t・百万円] 原単位:生産量及び試験研究費の加重平均値	2012年比 1.0%削減	2012年比 1.2%削減	☺ 達成	生産設備の運転方法の見直しにより、原単位削減。
	水リサイクル率の向上 [%] 指標:水リサイクル量/(水リサイクル量+新規投入量)	15%達成	15.1%	☺ 達成	散水(排水の再利用)により、水リサイクル率向上。

環境会計(2013年度)

(円)

環境保全コスト	コスト分類	設備投資	費用			
			固定資産コスト	ランニングコスト	経費	計
	公害防止コスト	0	1,438,839	16,274,923	230,000	17,943,762
	地球環境保全コスト	0	6,416,108	18,791,850	1,671,696	26,879,654
	資源循環コスト	0	2,227,975	4,997,086	9,476,963	16,702,024
	上・下流コスト	0	75,173	0	52,908,683	52,983,856
	管理活動コスト	0	113,405	0	3,439,080	3,552,485
	研究開発コスト	0	0	0	0	0
	社会活動コスト	0	0	0	609,701	609,701
	自然補修のためのコスト	0	0	0	0	0
	合計	0	10,271,500	40,063,859	68,336,123	118,671,482

環境保全効果、経済効果(費用削減)	取り組み	年間効果量		効果金額(円)
		量	単位	合計
	電気削減	5,723,481	kWh	103,863,365
	燃料削減	208,525	原油換算 L	20,300,113
	PFC 等温室効果ガス削減	0	kg-CO ₂	0
	水削減	29,182	m ³	614,472
	原材料・副資材削減	0	kg	0
	梱包材削減	0	kg	0
	化学物質削減	48	kg	13,176
	紙削減	0	kg	0
	廃棄物削減	583,396	kg	22,154,480
	歩留まり削減	162,272	kg	136,471,592
	その他	0	—	0
	効果金額合計			283,417,198